

平成 2 8 年第 1 回市議会の質疑概要

【文教委員会】平成 2 8 年 3 月 1 0 日（木）

<一般>

■ 石本 京子 委員（日本共産党堺市議会議員団）「図書館の相互利用について」

質問：図書館の相互利用の状況について。

答弁：図書館の相互利用については、現在、大阪市及び堺市、和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町の泉北地域 4 市 1 町において実施している。

質問：図書館の相互利用の効果、課題、今後の方向性について。

答弁：効果については、平成 2 6 年度の図書資料の貸出冊数で、堺市民が大阪市立図書館で借りた冊数は、通勤通学者を含んで、1 1 7, 7 9 9 冊。泉北地域の和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町立図書館で借りた冊数は、7 5, 1 7 5 冊である。

課題については、泉北地域の利用状況から、各市町間で利用者数の差が大きく、一部の市の負担が大きくなっている。利用者からは、貸出カードの統一化や 4 市 1 町のどこの図書館でも返却可能とすることなどの要望がある。各市町の図書館情報システムの改修や図書を搬送する物流等の問題、また、これらに要する経費の問題があり、将来的な課題である。今後も相互利用を促進していきたい。

要望：市民の要望をもとに、相互利用の課題について、引き続き検討願う。また、図書館の拡充を希望する。

平成28年第3回市議会の質疑概要

【文教委員会】平成28年6月17日（金）

<市長への質問>

■ 的場 慎一 委員（大阪維新の会堺市議会議員団）「図書館行政について」

質問：中央図書館の利用者からの評価について。

答弁：図書館全体の満足度は、5段階で3.84。中央図書館は、大仙公園内の緑に囲まれた環境で、桜の名所でもあり、大変素晴らしいとの意見あり。

質問：図書館運営における指定管理者導入のメリット・デメリットについて。

答弁：メリットとしては、経費節減や開館日・開館時間の拡大した自治体あり。

デメリットとしては、来館者数や貸出冊数増により、委託料の増額が必要になるケースも考えられる。

質問：魅力向上のため、設備の整備や民間のプロデュース導入の可能性は。

答弁：魅力づくりの点では、民間プロデュースの導入も必要な要素。府立中之島図書館が平成28年4月に民間プロデュースを導入したと伺っている。こうした動きも注視し、その効果も見すえながら、調査研究を行ってまいりたい。

要望：市民にどのような事が提供できるかという視点でいろいろトライをしてほしい。

質問：中央図書館と各区の図書館とでは、差別化が図られるべきものだと思う。また、直営でする部分と民間に任せる部分は、明確に分けるべきだと強く思っている。官と民の住み分けで市民に何が提供できるのか、市長の考えは。[市長への質問]

答弁：これまで図書館では、資料整理業務や移動図書館運営業務で民間委託していると聞いており、将来的にはICTの活用も含めて、民の力を借りなければならないと思っている。読書活動のすそ野を広げていくには図書館のネットワークを作る必要があり、地域の図書館の役割を見直し、増やしていかなければならないと思う。そのために、NPOや公共を担える団体を育てていくことも必要。地域の図書館の上に各区の図書館があり、中央図書館があるという役割分担を果たしていくべきだと思う。

今後とも民間サービスの活用や「新しい公共」の協力のもと、公共が担うべき図書館行政の機能はしっかりと高めていかなければならない。

質問：図書館の評価は、貸出数や来館者数といったデータだけでは測れないと思うが、市長はどのような感覚をお持ちか。[市長への質問]

答弁：市民に対する親しみやすさとレファレンス機能がしっかりと行われていることが図書館の評価の大きな要素。市民の利便性を向上させ、些細なものに対して的確な情報を即時に回答するサービスを行うことが評価の一番大きな部分だと思う。

要望：図書館になかなか来館しない市民のハードルをさげることが必要。図書館は、利用率の高い公共施設だとのデータもある。図書館の評価は、市民のそれぞれの「感覚」で高まっていくものではないかと思うので、今後も図書館行政をよろしく願いたい。

■ 宮本 恵子 委員（公明党堺市議団）「今後の中央図書館のあり方について」

質問：「今後の中央図書館のあり方の策定について」の諮問について、この目的は。

答弁：諮問の目的は、近年の図書館に対する市民ニーズや地域課題の複雑化、多様化に対応するために中央図書館では市民の課題を解決し、地域の活性化に貢献する図書館機能が求められており、ご意見をいただくために諮問を行った。

質問：今後の進め方、答申の時期について。

答弁：平成 28 年度においては、ICT や安心安全という観点での議論を行い、「今後の中央図書館のあり方について」としてまとめ、平成 28 年度末に答申をいただく予定。

質問：バリアフリー化、安心・安全とは具体的になにか。

答弁：エレベーターの改修や段差の解消などバリアフリー化推進の部分が議論される予定。平成 28 年 4 月に障害者差別解消法が施行された。それにあわせた形での議論も進められるものと思っている。

質問：第 3 回図書館協議会では、デジタルを駆使していく仕組みも必要だということも言われていた。このように協議がされており、いよいよ平成 28 年度は、ハード面も含んだ具体的な議論に進んでいくということによいか。

答弁：委員のおおせのとおりである。

質問：浦安市の図書館へ行かれた感想は。[市長への質問]

答弁：中央図書館機能とサテライト図書館機能がミックスされ、いろんな人材を使いながら、効率的に行っていこうという先進的な取り組みがされている。ある意味で幅広い蔵書があると理解した。今後も先進的な図書館をみていきたい。

質問：図書館協議会の答申が来年の 3 月に出るわけだが、今後の中央図書館の整備について竹山市長の考えは。[市長への質問]

答弁：今、議論していただいている答申をしっかりと熟読して、どのような図書館機能が良いのか、中央図書館の将来構想についても研究していかなければならないと思っている。

質問：新たに図書館の構想をおこなっていかなければならないという市長の決意だ。これは、新図書館という位置づけでよいか。[市長への質問]

答弁：新たに独立するのかという議論ではなく、図書館機能をどのように拡充していくのかというように、時代にあわせて ICT など市民サービスを高度化していくといったことは、常に研究しなければならないと思っており、それも含め議論していきたい。

質問：この答申がでたあとのスケジュールについて。

答弁：答申の記載内容を十分に認識し、実現に向けての検討を行い、市としての構想を今後、取りまとめていきたい。その上で、次期の堺市のマスタープランや未来をつくる堺教育プランの取組みとして反映できるよう進めてまいりたい。

要望：過去には、都市型図書館という提案をさせていただいたこともあり、党内でもさまざまな議論がある。これからしっかりと向き合って、市民に喜んでいただける図書館になるように私たちも議論していきたい。